

図 22.30 脂肪肉腫（粘液型）の病理組織像  
大小不同の核をもつ脂肪芽細胞様の腫瘍細胞（細胞質に脂肪滴をもち白く抜ける）がみえる。

## b. 脂肪組織系腫瘍 adipocytic tumors

### 脂肪肉腫 liposarcoma

脂肪細胞への分化を示す間葉系腫瘍。深在性の境界不明瞭な大型の腫瘍で自覚症状に乏しい。WHO 分類では高分化型、脱分化型、粘液型、多形型などに分けられている。病理組織学的には核異型を伴う脂肪芽細胞 (lipoblast) の増生がみられる (図 22.30)。高分化型は予後が良好いため、異型脂肪腫様腫瘍 (atypical lipomatous tumor) と呼ばれ中間群に属する。治療は化学療法および広範囲切除術を行う。

## c. 筋組織系腫瘍 tumors of the muscular cells

まれな腫瘍ではあるが、筋組織系の悪性腫瘍として、平滑筋肉腫 (leiomyosarcoma) や横紋筋肉腫 (rhabdomyosarcoma) などがあり、ともに予後不良の疾患である。前者は高齢者の四肢などに生じ、平滑筋への分化傾向を伴う異型性の強い紡錘形細胞がみられる。後者は乳幼児の頭頸部 (胎児型) や若年者の四肢 (胞巣型)、高齢者 (多形型) などにみられる。

## d. 脈管系腫瘍 vascular tumors

### 1. 血管肉腫 (脈管肉腫) angiosarcoma ★

同義語：悪性脈管内皮細胞腫 (malignant angioendothelioma)

#### Essence

- 高齢者の頭部、顔面に好発、不明瞭な暗赤紫紅斑と血疱、易出血性隆起局面を形成。
- 血管あるいはリンパ管 (脈管) 内皮細胞の増殖による悪性腫瘍。
- 血行性に肺に転移しやすく、予後不良。

#### 症状

わずかな外傷が誘因になることもあるが、小さな紫斑から初発し、しだいに拡大して暗紅色かつ浮腫性の局面を呈する (図 22.31)。局面は易出血性であり、容易にびらんや痂皮を生じ、湿潤性の潰瘍を形成する。さらに進行すると結節を形成し、肺、胸膜、肝臓、リンパ節などへ転移、血・気胸をきたして死亡す

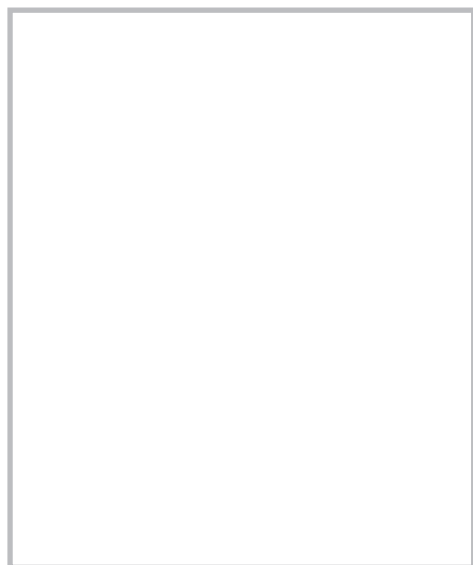


図 22.31① 血管肉腫 (angiosarcoma)  
一部潰瘍を認める。